



タイトル Title	地方政府における大学生への教育費支援政策
著者 Author(s)	安, 珍傑 / 桔川, 純子(翻訳)
掲載誌・巻号・ページ Citation	日韓シンポジウム,第3回:
刊行日 Issue date	2015-02-27
資源タイプ Resource Type	Presentation / 会議発表用資料
版区分 Resource Version	author
権利 Rights	
DOI	
JaLCDOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/81010570

PDF issue: 2019-03-24

地方政府における大学生への教育費支援政策

参与連帯 協同事務処長

安珍傑（アン・ジンゴル）／通訳 桔川純子

安珍傑です。先ほど、金弁護士が話したことについて、私の方から補足をさせていただきます。

【奨学金の利子】

今日の午前中に、「兵庫奨学金の会」の方たちと意見交換をしました。今後、日韓の連絡会議のようなものをつくってはどうかと思いました。

今日伺った話では、有利奨学金の利子は、日本ではだいたい1%前後、韓国ではまだ2.9%です。1%よりはるかに高い数字になっていますから、韓国に帰ったら、これをもっと下げるキャンペーンも行っていきたいと思います。

【給付型国家奨学金】

先ほど金弁護士が述べたように、韓国は2012年度から給付型国家奨学金制度がスタートしました。2015年を基準にすると、予算規模としては3.6兆ウォンで、120万人の学生たちが恩恵を受けています。一人平均で288万ウォン、高い場合には480万ウォンですが、低い場合には100～150万ウォンしかもらえません。いま市民団体・学生団体が要求しているのは、ソウル市立大学のような「半額登録金の実現」です。

【地方政府の試み】

ソウル市の場合は朴元淳（パク・ウォンスン）市長になって、2012年から本格的にソウル市立大学の登録金を半額にしました。その結果、一人当たりだいたい103万ウォンになりました。ソウル市は、半額登録金を完全に実現させたということです。

さらにもっと驚くべきことに、江原道（カンウォンド）というソウルの北にある自治体では、崔文洵（チェ・ムンスン）さんが道知事になって、半額化どころか、2013年において32万ウォンという無償に近いような登録金の減額化を実現させています [以上に関しては、渡部昭男（2014）「韓国における登録金半額化と大学の在り方——ソウル市立大学を事例に」細川孝編『「無償教育の漸進的導入」と大学界改革』晃洋書房を参照のこと]。

無償化が一気には難しいとしても、ソウル市立大学や江原道立大学のような、斬新的な登録金の引き下げを推進していくべきだと、私たちは強く要請しています。

ソウル市立大学も江原道立大学も登録金の半額化・減額化が実現してから、学生はアルバイトの時間が減って、その分勉強やサークル活動に専念できる状況が見られます。

【ソウル市における学資金の利子支援】

ソウル市は、学資金の利子の支援も行っています。ソウル市内にある大学、その大学については、学生たちが借入れをした場合にその利子分を支援するのです。

【さらなる運動課題】

半額登録金運動に取り組む際に、「半額登録金国民本部」という組織ができました。だいたい 500 余りの教育団体、保護者・当事者・市民団体等が参加・連帯して、大きく運動を展開しました。

ソウル市立大学の場合は、保護者の所得にかかわらず、登録金は半額になりました。韓国社会では、いまソウル市立大学の人気上昇しています。そして、ソウル市立大学の学生たちには、「まず君たちの大学が半額登録金になったわけだから、今度はほかのところもそうなるよう積極的闘争に参加してほしい」と要請しています。

【福祉の拡充】

韓国では現在、福祉の拡充を進めるにあたり、所得にかかわらず全ての人を対象とするのか、それとも特定の所得階層に限定するののかという、非常に熾烈な論争が起こっています。

【朴槿恵大統領の公約の実現】

朴槿恵（パク・クネ）大統領は、公約の中で「教育予算 4 兆ウォン」を掲げていました。しかし、実際には 3.6 兆ウォンを付けたに過ぎません。公約が実現できていないわけです。公約が実現されたならば、もっと多くの大学生が支援を受けられたとはずであり、非常に残念だと思います。

【成績基準】

また、成績基準の問題もあります。学業成績が国家奨学金を受ける際の選考ポイントになっているので、現在は 120 万人しか恩恵を受けていないわけです。こういった問題もまだ解決できずにいます。

【日韓の連帯】

少なくとも教育費の心配のない社会をつくっていく、こういう国際的な連帯、日韓の連帯が必要だと考えます。

日本の場合はまだ、給付型国家奨学金制度は導入されていません。けれども、今日、午前中にお話を伺ったところでは、無利子奨学金もあることを聞きました。韓国に帰ってから、無利子で借入れすることができるという事例を示しながらキャンペーンを行っていきたいと思います。

今日お話を伺いました「兵庫奨学金の会」であるとか、日本の奨学金問題対策全国連絡協議会、大学評価学会と、韓国の半額登録金運動本部等々で、日韓の連絡会議をつくって、奨学金の無利子化、半額登録金の実現を目指して運動を展開していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

【補足①：登録金半額化＋国家奨学金＝無償】

Q：ソウル市立大学において、登録金の半額化に加えて国家奨学金を得たとすれば、その学生は無償に近いのか。

A：ソウル市立大学では半額登録金になりましたので、低所得者層の家庭の学生については国家奨学金も得ることができますので、ほとんど無償になると考えていいと思います。

【補足②：全員か限定か】

Q：ソウル市議会の議事録を見ると、「全員か低所得者限定か」ともう一つ、「全員かソウル市内の学生限定か」(ソウル市外からソウル市立大学に来ている学生にまで半額にする必要があるのか?) という議論があったと思うが…。

A:確かにそういう議論はあったのですが、「教育の普遍性」という観点から考えるときに、ソウル市民であるかどうかにかかわらず、その恩恵は受けるべきだという議論になりました。それに対しては、ソウル市民が不満を持っているということではないと理解しています。

半額登録金について、あまり反対はありませんでした。しかし、利子の支援については、いろいろ議論がありました。ソウル市に所在をする大学生に対して支援するのであれば、ソウル市に住民票はあるのだけれども、ソウル市以外の大学に通っている人たちはどうするのだという議論です。

結果としては、まずソウル市に所在をしている大学に通っている学生、その後にソウル市民であってソウル市以外の大学に通っている学生という順番になりました。「教育の普遍性」という観点から、結局両方とも実現することができました。これはソウル市にある教育関係の市民団体から非常に支持を受けています。

【補足③：成績基準】

Q：成績基準とはどのようなものか。

A：国家奨学金に関しては、平均成績 3.5 以上が対象になります。この成績基準は、非常に厳しく、だいたい 25～35%の学生たちはそれ未満ということで対象外になっています。低所得者層の家庭の若者は、その成績基準に該当しないことが多いので、成績基準をなくすか、もっと低くすることを強く要望しています。